

# 航空局のユニットプライス型積算方式の取り組み状況

国土交通省航空局飛行場部建設課

おの よしみつ  
土木第二係長 尾野 芳光

## 1. はじめに

航空局では、「ユニットプライス型積算方式」への転換に向けて滑走路などの空港基本施設舗装工事について、平成17年10月から国直轄の工事を対象に導入を図ることとし、試行を実施しています。

本稿では、航空局のユニットプライス型積算方式の現況および今後の取り組み状況を紹介致します。

## 2. 取り組み状況

国土交通省公共事業コスト構造改革プログラムの策定について（平成15年3月31日付け）の一部である積算の見直しの施策、「積み上げ方式」から歩掛を用いない「施工単価方式」への積算体系の転換に向けた試行について、平成16年1月、国土交通省においてユニットプライス型積算方式の基本的な制度設計をとりまとめたことにより積極的に取り組みを進めております。

### (1) 試行工事の選定

航空局の空港土木工事の中でユニットプライス

できる工事の選定にあたっては、①用地造成、②基本施設舗装、③舗装（滑走路、誘導路、エプロンを除く）、④空港維持、⑤空港修繕の中から相当数の発注件数が見込まれる“②基本施設舗装”の舗装工事としました。

### (2) ユニットプライス分析

平成16年度、平成17年度に実施したユニットプライス単価収集調査結果に基づき、ユニットプライス単価の分析を実施しました。分析方法の概要は以下のとおりです。

- ・データの抽出：データは、予定価格の上限が拘束性のバランスをとり、収集データの分布形の標準化を図る観点から、総価（落札率）について統計的処理を行い、最頻値から1σ（標準偏差）以内のデータを分析対象として抽出しています。
- ・収集単価の補正：各地域の単価は、東京を基本とした地域係数により、収集単価を基準単価ベースに補正しています。
- ・単価の分析：条件区分ごとに分布図を作成し、相関関係の検討、外れ値の検証を行いました。
- ・空港特有プライス条件：空港舗装は、最大質量約400tの空港機が走行するため、一般の道路舗装と比較して舗装厚が表層、基層を合わせて16cmと大変厚い構造になっています。新設舗装の場合は、表層5cm、基層10cm（2層仕上

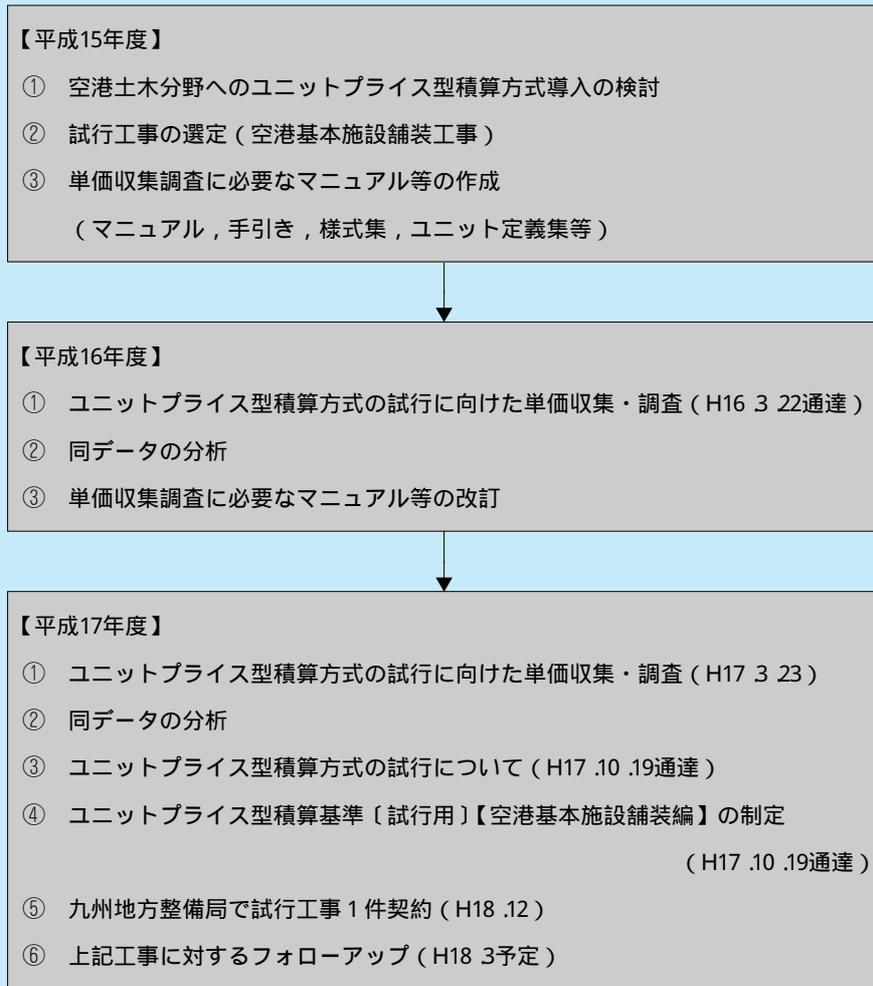


図 1 航空局におけるユニットプライス型積算方式導入に向けた調査・検討の経緯

げ)と各層ごとに施工しますが、以下の試行工事は、改良工事のため表層8cm、基層12cmと断面が厚く特殊施工であり、プライス条件の設定も特殊なものとなっております。

(3) 試 行

平成17年度は九州地方整備局発注の福岡空港滑走路改良外1件工事において、平成17年12月に試行工事を契約しております。

(4) フォローアップ

試行工事について、契約後、請負者と単価協議実施し、単価合意書を取り交しました。

(5) 平成18年度の取り組み予定

平成18年度以降も空港基本施設舗装工事の単価収集・調査などを実施していきデータ蓄積・分析を行い、今後のユニットプライスの妥当性を充実

させていきます。また 試行工事は各地方整備局・北海道開発局・沖縄総合事務局でのおのの1件程度実施予定しております。

3. おわりに

今後、受発注者双方へフォローアップ調査票を配布し、実施全体を通じた効果（積算価格の的確性、市場性、工事目的物の価格との関係を明確化による計画的な事業執行、契約上の協議の円滑化、請負者の有する技術力の活用促進、積算業務の合理化など）および課題をいただき本運用に向けてさらなる検証・検討を行ってまいります。